

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属: 危機管理学部 危機管理学科

資格: 専任講師

氏名: 宮脇 健

研究課題		平時・有事の際のリスクコミュニケーションに関する実証的な研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>平時・有事における自治体-住民間のリスクコミュニケーションがどのように相互作用をもたらしているのか実証的に研究することを目的としている。</p> <p>有事の際の自治体の情報提供は多く研究されているものの、平時におけるリスクに関する自治体の情報提供の内容と方法が市民にどのような影響を与えているのか、平時における危機に関する自治体の情報について、どのような情報を市民に提供すべきなのか、といった平時からの感染症に関する自治体の広報活動について研究されてきたとは言いがたい。そのため、本研究では、1. 自治体の情報提供の内容と方法、そして住民の平時・有事の際の自治体から発信される情報の頻度、2. 自治体のリスクに関する情報提供(啓蒙活動)は住民の危機が発生した際の対応に影響を与えるのか、実証的に研究することを目的としている。</p>
	研究成果	<p>本研究の成果としては、The Fukushima Nuclear Accident and Environmental Risk:A Survey of Fukushima Residentsの論文があげられる。この研究成果により、自治体-住民間のリスクコミュニケーションの円滑な関係を構築するためにはマスメディアの影響力が必要であることが確認された。また、自治体も含め、行政機関及び政府などの機関への信頼度合(高い、低い)が住民の意思決定に影響を及ぼすことも確認された。すなわち、信頼が低い場合には、リスクコミュニケーションとしての政策を打ち出しても負の効果しかないことが確認された。その点では、一定の成果があったと考えられる。</p> <p>しかしながら、他の研究の成果に関する学会報告や論文執筆が続いたため、今年度を実施した調査については学会報告を行うことや論文を投稿することが出来なかった。ただし、次年度の学会報告への応募は行っている。受理されれば報告用の原稿の執筆と学会誌等への執筆を進める予定である。</p>
研究業績	<p>・論文および著書</p> <p>著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	<p>Takeshi Miyawaki&amp;Shinya Sasaoka The Fukushima Nuclear Accident and Environmental Risk:A Survey of Fukushima Residents, Asian Journal for Public Opinion Research Vol 5, No1, 30 November 2017,pp.1-14 (査読有り)ISSN 2288-6168(oline)</p>
	<p>・学会発表等</p> <p>発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	※特に無し
	<p>・その他</p> <p>*書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等</p>	※特に無し